

地元デニム 世界にPR

イタリア・ミラノで2月5〜7日に開かれる世界最大規模のテキスタイル(布地)展示会「ミラノ・ウニカ」に、福山、井原市のデニム関連メーカー3社が初出展する。両市などの繊維関連企業や自治体を取り組む「備中備後ジャパンデニムプロジェクト」の一環。欧州を中心とした海外販路の開拓を図るとともに、国内屈指のデニム産地である備中・備後地域を発信する。(松山慎二)

福山、井原の3社

ミラノ・ウニカは、パリで行われている生地見本市「プルミエール・ヴィジョン」と並ぶ世界最高峰の展示会とされ、年2回開催。昨年7月の前回展示会では欧州の高級ブランドをはじめ、6千社を超えるバイヤーが集まった。

日本のブースは2014年から設置しており、広島・岡山県の企業の出展は今回が初めて。一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構と日本貿易振興機構(ジェトロ)を通じて全国から約30社



アンネのバラの接ぎ木に取り組み参加者

記念館のボランティアグループ「スモールハズ」の小中学生ら約20人が、平和への思いを込めて取り組んだ。台木となる野バラにナイフで切り込みを入れた。長さ5センチほどのア

打撃や守備
JFE西野
野球教室 11
JFE西日本硬式野球部は26日、県東部の

海外販路の開拓図る

ミラノ・ウニカ初出展



篠原テキスタイルが開発した「パイルデニム」(手前)

・団体がエントリーし、同プロジェクトからは山陽染工(福山市一文字町)と篠原テキスタイル(同市駅家町中島)、日本綿布(井原市東江原町)が参加する。山陽染工は、デニムの色を抜いて柄に濃淡の細かいグラデーションを付ける

イ

世羅町本水農園の直ルネ・ライイチゴ狩りいる。ハウ酸っぱい香赤く染ま、光客たち



「インディゴ段落ち染」を施した山陽染工のデニム

「インディゴ段落ち染」を施した山陽染工のデニム。出展料、通訳料のほか、バイヤーらに会場を呼び掛ける広告料など計約600万円を負担する。プロジェクト事務局として参加する福山市産業振興課は「日本のデニムは高品質として世界から認められている。各社の高い技術力はもちろん、産地にも興味を持ってもらえるよう、しっかり売り込みたい」としている。



ハウ